



- 一般職及び特別職の給与等をカット ..... ②
- 一般会計に7、906万円追加補正 ..... ③
- 平成13年度の会計決算を承認 ..... ④
- ⑤
- 一般質問は2人 あなたのかわりに町の考えを聞く ..... ⑥
- ⑦
- 傍聴席から一言 最近思うこと ..... ⑧

# 7,906万円追加補正

## 体育館床修理費など

12月定例会

### 一般職及び特別職の給与等カット

平成14年12月定例会は、12月13日に招集され、16日までの4日間の日程で開かれました。今定例会では、平成13年度各会計決算の認定や平成14年度の一般会計及び特別会計補正予算、条例改正、人事、請願等について審議しました。一般質問は、2名の議員が登壇し、町政全般にわたり質問しました。

#### 条例改正

○ 甲佐町の議会議員及び長の選挙におけるポスター掲示場の設置に関する条例の一部改正

環境美化などから懸案となっていました甲佐町の選挙時のポスター掲示については、今回全員一致で可決され、2月の選挙時から公設掲示場のみ許可されることとなりました。

設置場所は、町内61箇所となっています。(詳しくは、役場総務課へ)

○ 甲佐町一般職員等の給与に関する条例の一部改正

主な内容は、

① 甲佐町職員の給与の官民格差を是正するため給与表を平均約2・24%、1人平均月額1万147円減額する。

② 扶養手当の月額を配偶者は2,000円引き下げ、14,000円に、子供のうち3人目以降に2,000円引き上げて5,000円とする。

③ 期末手当については、平成15年3月分の率を0・05%引き下げ、平成16年以降については3月分は廃止する。また、6月期の率を0・2%加算、12月期の率を0・3%加算し、年間0・05%減額する。

など、給与等に関する減額の改正が賛成多数で可決されました。

○ 町長等特別職の給与や報酬に関する条例の一部改正

民間や職員給与等の引き下げの現状を考慮して、町長、助役、収入役、教育長、議長、副議長、議員など特別職の給与や報酬を下表のとおり平均2・1%減額するものです。

また、期末手当については、平成16年の3月分から廃止する。ただし、6月期の率を0・1%加算、12月期の率を0・15%加算し、

○ 甲佐町課設置条例の一部改正

合併に関する準備事務に対応するため、用地開発課

年間において0・25%減額するものです。

の業務を建設課へ集約するもので、全員一致で可決されました。



改修が進む大井手

区分	改選前	改正後	増減額
町長	816,000	812,900	△3,100
助役	612,000	609,700	△2,300
収入役	571,000	568,800	△2,200
教育長	571,000	568,800	△2,200
議長	326,000	324,700	△1,300
副議長	269,000	268,000	△1,000
議員	245,000	244,000	△1,000

# 一般会計に 中学校



部活でのケガが心配される中学校体育館

## 補正予算

### ○ 一般会計

平成14年度甲佐町一般会計に7,906万円が追加補正されました。

- その主な内容は、
- ① 異動による人件費の調整
- ② 家屋補償などで3,9

05万円追加

③ 庁舎建築基金積立金に2,000万円追加

④ 国保会計への繰出金1,765万円追加

⑤ 上揚水道揚水試験等に173万円追加

⑥ 地域用水環境整備事業負担金等に510万円追加

⑦ 中学校体育館の床修繕料として不足分253万円追加

⑧ 消防費で993万円の減額などです。

### ○ 国保特別会計

平成14年度甲佐町国民健康保険特別会計に1,765万円が追加補正されました。その主な内容は、

① 人件費の調整

② 収納特別対策事業補助金の減額に伴う、一般会計繰出金150万円の減額

② 予備費へ1,817万円の追加などです。

### ○ 介護特別会計

平成14年度甲佐町介護保険特別会計に11万円が減額補正されました。

その主な内容は、

① 人件費の調整に伴う167万円の減額

② 介護報酬の改正に伴うコンピュータシステム変更等に156万円の追加などです。

## 陳情等

有線放送特別会計及び水道事業会計についても補正予算が提出され、全員一致で可決しました。

### ○ 北朝鮮拉致事件の徹底した真相究明と国の毅然とした態度を求める意見書の提出について

提出者 北朝鮮に拉致された人々を救出する熊本の会

拉致家族の心情を察し、全員一致で採択しました。

### ○ 労働者の雇用、失業、中小企業対策の強化、地域経済の振興を国に要請する意見書採択を求める陳情書

提出者 熊本県労連

一定の理解は示すが、時代の流れに逆行するような

記述もあるということで、賛成者少数により不採択となりました。

○ 介護保険制度の充実を求める陳情

提出者 熊本県社会保障推進協議会

全体の陳情趣旨については理解は示すものの、本町の実情と異なる記述があるという事で賛成者少数により不採択となりました。

○ 乳幼児医療費無料化を国の制度として創設する意見書採択を求める陳情書

提出者 新日本婦人の会 熊本県本部

本町では既に実施しているが、子育て支援の一環としても重要な施策のひとつであり、国の制度を望むため全員一致で採択しました。

### ○ デフレ不況打開し、中小業者の営業とくらしを守る緊急対策を求める要望書

提出者 熊本県中小業者団体連絡会

甲佐町教育委員会委員の選任同意が提出されました。任期満了に伴い、現委員である田上道子さんを引き続き任命するものですが、全員一致で同意されました。

## 人事

安全な食品を安定的に提供するためにもWTO農業交渉は生産者だけでなく国民的な課題であるということで全員一致により採択しました。

以上、採択したものについては、議員発議により各意見書が提出され、全員一致で可決されました。

○ WTO農業交渉等に関する意見書  
提出者 上益城農業協同組合代表理事組合長ほか4名

# 平成13年度の会計決算を承認

決算審査特別委員会は、11月25日から29日までの4日間にわたり、平成13年度一般会計並びに各特別会計の決算について審査を行いました。

11項目にわたる意見を付した決算審査の内容が12月定例会へ特別委員会から報告され、報告のとおり認定されました。

## 結果（概要）

① 監査委員からの「一般会計及び各特別会計の歳入歳出決算書等の計数は誤りのないものと認められる」との報告を尊重し、これらの事柄については審査を省略しました。

② それぞれ決算は、議決の趣旨に沿っており、特に適性を欠くものとは認められませんでした。

③ 財政構造は、經常収支比率が依然として高く、健全性を保っているとは言難く、指摘をしました。

④ 有線放送特別会計財政調整基金を含め、今後の運用について検討を望む。

⑤ 県営の農道整備事業が文化財の遺跡調査で滞っているが、その調査事業は町の所管に帰属すると聞く。事業停滞がなきよう早急な対応を望む。

⑥ 本年のように夏場の渇水期においては、生活や防池の浚せつや改修など国・県、関係各課と連携した対応を望む。

⑦ 宮内校区における上水道問題については様々な検討が行われ、現施設を改善利用する方向で計画が進められているが、調査の結果地域によっては水脈が存在しない所もある。校区全体の水道整備を精査し、管理運営の問題もあわせた検討・研究を望む。

⑧ あんま、はり、灸の治療費補助については、本年6月議会において陳情書を採択した経緯があり、町民の利便性を高めるためにも町外での利用を含めた検討を望む。

⑨ BSE対策補助金では、支給対象者をめぐって問題が発生したが、現在では非対象者からの返還も終え、事態は一応の収拾を見たところである。今後はミスがないよう文書通知を徹底し、調査方法も慎重に行うなど適切な対応を望む。

⑩ 例年、新規就農者の数は少数であり、町の基幹産

- ① 国からの地方交付税や交付金は年々削減され、それを補う自主財源の創設も
- ② 税金や各種使用料については、全般的に徴収率は上昇したが、滞納者の一部には納付意欲にかけられるものがある。滞納の長期化を防ぐため、
- ③ 地域改善対策特定事業に係る特措法も期限が切れ一般法での対応となるが、人権意識の高揚に向けての啓発は重要である。有効な事業展開を要望する。
- ④ 地域間交流を視野に入れ、施設の利用度向上も一つの啓発活動かと考える。対応を望む。
- ⑤ 強い態度で臨む必要がある。適切な対応を期待する。
- ⑥ 住民ニーズは多様化し、地方分権の下、事務量は今後も増大するものと思われる。そのような状況の中で、時代に即した町の振興策については、広域行政や合併問題といった情勢等を考慮し、各種基金の今後の運用についての検討も重要と考える。また、監査委員からの指摘でもある、機構改革による効率的な組織の確立が必要と考える。それらを併せた真剣な取り組みを要望する。



満面と水を蓄えた農業用ため池



中学生と保育園児との交流体験学習の現場から

業である農業の将来を考えた場合、不安を感じる。少子高齢化の現実を踏まえ、安全で安定した農作物の生産を手がけるためにも、生産者に対する助成や担い手育成など新規就農者への町独自の抜本的な対策を検討されたい。

⑪ 学校週5日制の実施による学力の低下が問題と

なっているが、本町では、中学校を学力充実研究推進校として指定するなど、本年度から町単独による学力充実へ向けた事業が始められた。

しかし、社会に対応できる青少年の育成を目指した、教職員と児童生徒との心のふれあいも重要な課題である。検討されたい。

### 第2回臨時会

平成14年11月12日(火)に開催されました第2回臨時会は、工事請負契約について審議しました。内容は、前契約業者であったサンエー・光永建設共同企業からの工事続行不能届に伴う契約解除により、新たに残工事分について工事請負契約を行うものです

- 契約方法  
指名競争入札
- 請負業者  
熊本市九品寺6丁目2番19号
- 株式会社 多々良
- 請負金額  
20,664万円
- 契約の目的  
白旗小学校体育館新築工事
- 年度内の工事完了を願ひ、全員一致で議決しました。

### 今後の農業や行財政のあり方について 議員研修を実施

本町の課題である今後の農業のあり方や行財政などについて、先進地といわれる他市町の取り組み状況等を研修し、今後の町づくりを寄与することを目的に、平成14年度甲佐町議会議員の研修を実施しました。日程は11月5日(火)から8日(金)の3泊4日、研修先や研修内容については次のとおりです。

#### 三重県度会郡玉城町

玉城町では、コンピュータによる行財政改革システムをつくるため、早くか

らOA化推進委員会を設置し、取り組んでおられます。ペーパーレスと情報の共有化が図られることにより、従来の「課」ではなく「チーム制」を職場に導入され、よりスムーズで有効的な行政運営の実施や職員を時差出勤をさせることで、全ての窓口業務のサービス時間を2時間延長されるなど住民サービス向上への取り組みが行われていました。

#### 三重県上野市

都市近郊の農業のあり方として「貸し農園」につい

て研修しましたが、団体で実施するには、課題も多く、継続した研究が必要と感じました。

#### 三重県阿山町農業組合 法人「伊賀の里モクモク手作りファーム」

従業員180名で直営農場の運営、直営農畜産加工場の運営、農業公園の運営、通信販売、直営店の運営、量販店向け卸販売など農業の6次産業化を具体的に実

践し、年間売上約26億円を達成されています。また、自らの消費者団体であるモクモクネイチャークラブを組織され、全国に3万人の会員を抱えておられます。

「若者が定着しないのは、農業に夢やロマンがないから」、「今や女性が主人公」といわれた言葉が印象に残りました。とても有意義な研修でした。



研修の模様



# 一般質問と答弁

北畑常博 議員

## 町村合併の計画は

## 任意協議会を立ち上げてから

北畑議員

国、県、町の財政事情がきびしい中、町村合併という大きな問題を抱えていますが、合併をどことされるのか、また、どのように考えておられるのかお尋ねします。

町長 今まで2回、校区において説明会を行いました。その中で、当初、周辺町村の益城町、嘉島町、御船町、甲佐町の4町合併の枠ですめられてきました。その後、益城町、嘉島町の両町が抜けました。

周辺町村については、中央町、砥用町の町長に会って、甲佐町との合併について真意を正したところ両町とも「甲佐と合併する気持ちはない」とのことでした。城南町の町長は、嘉島、御船、甲佐3町として住民アンケートをとりましたが、

少数で現在熊本市との合併を考えているとのことでした。

そのようなことで、検討を重ねてきた結果、御船町と任意協議会を立ち上げてまずはビジョンを作って行くという話になっているところでは。

合併した場合のメリット、デメリットは新しい町づくりのチャンスと捉えている

北畑議員

自分自身も合併やむなしとっていますが、合併する場合のメリット、デメリットについての調査は行われていきますか。

町長

合併をしなかった場合は、現状の住民サービスはおそらくできないでしょう。交付税も減額されてくるし、財政的にも大変難しくなり

ます。そういうことで、新しい時代に向けた新しい町づくりをするため、合併をチャンスと捉えています。

合併後の甲佐町の存在は地域の拠点となる所は残して

北畑議員

合併後、いかにして甲佐町という存在があるようにするのか町長の考えをお願いします。

町長

名前が残るかどうかは、これから先のことですが、地域の拠点となる所は残していきたいながら、住民サービスをきちんとやっていく必要があると思っています。

市街地の環境整備は補助事業としては大変難しい

北畑議員

商工会から先日駐車場や公園を例として、大井手川の環境整備の陳情があったと聞いていますが、どのように考えておられますか。

町長

商工会ではなく、区長会から連盟で陳情が出ました。その後すぐ県へ出向き、協



農産物のブランドづくりを

議しましたが、そういう補助事業はないとの返答でした。そういったことで、区長会長には、大変難しいと伝えていきます。

甲佐町ブランドをつくるには全力を尽くして努力したい

北畑議員

農産物において、町が中心となって、甲佐町ブランドをつくり、生産者自ら値段をつけ、全国に打って出るようなことを考えてやり

たいと思いますが、町長はどう考えますか。

町長

ブランドづくりは、大変大切なことだと思います。全力を尽くして努力したいと思います。

北畑議員

商工会、農家の代表の意見を聞きながら、農政課の中に専従の職員1〜2名配置してはどうですか。

町長

具体的な内容を見て、検討したいと思っています。

佐藤義郎 議員

農業後継者を募り、月10万円助成を  
職員と一緒に検討したい



収穫に忙しいイチゴ栽培農家

30歳代が18名、40歳代が44名、50歳代が65名、60歳代が3名となっています。

甲佐町の基幹産業である農業がこのような状況では、活力も出るはずがありません。抜本的な後継者育成対策を確立すべきです。

安全な食料を安定的に供給してもらうためにも農業に従事する者を育成していくことが緊急の課題です。

そのような意味で農業の後継者問題を位置づけ、有機農業を徹底し、無農薬に近い方法で、それも米を中心とした野菜、果樹、酪農、畜産など多角的農業の経営を生涯の職業として若い方に希望者を募りやっていた

そのための対策費として一人あたり月額10万円を5年間程度助成する。同時に販路の確保が必要ですが、有機肥料や無農薬に近い状況で生産すればコストが高くなりません。消費者にも再生産を保障するためにも理解いただき、消費者と直結した直販制度を確立していく必要があります。

生涯の職業を農業とし、



病院の待合室のもよう

固い決意の下、熱意を持ってやっていく若者を少なくとも年間5人それを5年間育成しては如何ですか。今ある個々の農家への助成ではなく、我々の食料を安全で安定的に供給してもらう農家を育成する。活力ある町づくりのためにも何よりも優先して行うべきではないでしょうか。町長のご意見を伺います。

町長

議員研修報告の中に「夢やロマンがないなら後継者、

若者は居つかない」とありましたが、ここで思い切った、しっかりした基礎を作っておかないといけないと考えています。今後諸々の協議を行い、私も職員と一緒にしっかりと検討を加えていきたいと思えます。

国民健康保険料の減額を  
もう少し様子を見たい

佐藤議員

国民健康保険については、昨年の決算で2億円以上の実質収入があり、黒字経営

であります。また、健康保険税の高いのは困るというのも圧倒的多数の町民の声であります。もちろん国民の健康を守る意味からこの健康保険税は大切です。しかし、この健康保険税は、住民税、所得税よりも高く頭の痛い問題です。本町の場合、一定の黒字が出ています。基金も一定額あるのでこの際もう少し減免し、返金してはいかがでしょう。例えば、1世帯平均1万円減額を提案しますが、町長の考えはどうですか。

町長

結論的に、もう少し様子を見たいと思えます。

平成13年度決算は、確かに実質黒字ですが、基金の3ヵ月分の保有額としても少し不足しています。また、1つ目は、平成14年度は加入世帯が増加している。2つ目は、年度のなかばであり、年間医療費給付額の見込みが難しい。3つ目は、改正に伴う前期高齢受給者の給付額の増加が見込まれる。などがあり、平成14年度をしっかりと見てみたい。

佐藤議員

今日において政府の農業政策の誤りで、貿易自由化のもと日本の基幹産業の一つである農業を潰してきま

の農家は30年前の1,800戸から1,200戸にまで激減したのです。現在、認定農家は69戸、認定農家に準ずる農地幹旋譲受候補者農家が67戸で合計136戸。20歳代が6名、

# 4年連続優勝

平成14年11月15日(金)

本町総合保健福祉センターにおいて、郡内の町村議会議員や事務局職員等を対象に109名が参加し、標記研修会が行われました。

荒木上益城郡町村会長(嘉島町)の来賓祝辞のあと、「上益城の将来は皆さんの双肩に」と題して、上

益城地域振興局長興栢康蔵氏による講演が行われました。

また、午後、会場をグリーンパル甲佐へ移し、ゴルフによる親善スポーツ大会が行われました。

甲佐町議会議員は、団体の部において見事4年連続7回目の優勝をおさめました。



グリーンパル甲佐にて

## 傍聴席から一言

# 最近思うこと



坂本敏博  
田口

私は、PTA役員をやっているが、子供の数が少なくなってきたので、今後の

学校のあり方を心配しています。クラブ活動は種類が減って子供たちの好きな活動ができなくなってきました。また、保護者の数も減り、PTA会費もアップしないと従来のような行事ができなくなってきました。(PTA行事は進め方を考えて、お金のからな

いやり方で進めればよいのですが)

全国的な規模で少子化が進んでいます。私が中学生だった頃は1学年に約240名程いましたが、私の子供の年代には120名となり、最近の本町の出生数は70〜80名と確実に減りつづけていると聞いています。町の福祉対策も高齢者の方々へのことは、テレビ放映などもあり、一生懸命取り組んでおられるのがわかりますが、少子化対策や若

## 広報コンクールで入賞

第6回熊本県市町村議会広報コンクールにおいて、甲佐町議会だより「清流」100号が見事入選し、平成14年11月6日熊本県自治会館において表彰を受けました。

本町議会だよりは、昭和52年に第1号を発刊し、25年間にわたっています。この度の2度目の入選受賞を機会に益々研鑽を重ね、皆さんに分かりやすく、親しまれる紙面づくりに努めていきたいと思えます。今後とも皆さんのご協力をお願い致します。



議長と議会広報編集特別委員会メンバー

## 編集後記

2003年2月、今期議会最後の「清流」を送ります。

編集委員一同、大いに研鑽努力したつもりですが、「充分町民の皆さんの期待に答えられたろうか」という思いの連続で終わりました。

来期から新しい議会、新しい編集委員の諸君が、新鮮な感覚で、町民の皆さんの期待に答えられる「清流」をお届けするであらうことを期待して、編集後記とします。